

県立高等学校重点校制度に係る事業報告書

学校名 米子白鳳高等学校

重点項目	特別支援教育重点校	提出日	平成31年4月24日
------	-----------	-----	------------

1 学校目標	
<p>多様な学習歴やニーズを持つ生徒の学習を支援し、社会で共生する資質と自立の基盤となる能力・態度を育む。</p> <p>1 学ぶ意欲の喚起・育成</p> <p>2 心豊かに他と共生する態度の育成</p> <p>3 社会的自立への支援</p>	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>【特別支援教育の充実】</p> <p>特別支援教育の視点から、学校全体で生徒を育てるという意識を持ち、生徒の情報を共有し、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、特別支援教育支援員、白鳳サポーター、関係機関などと連携した手厚い支援体制を組み、困り感を可能な限り軽減して、学習に取り組めるように支援し、不登校を解消することができる。</p> <p>【自己理解の促進】</p> <p>生徒自身の自己理解を進めるような生徒向け講演会を行い、自己理解を促す。また、1年次の4月当初には、グループワークを行い、春先の人間関係をうまく築けないための不適應を予防するためのクラスの雰囲気作りを行い、「安心できる居場所としてのクラスの仲間作り」を目指す。スクールカウンセラーによる「ストレスマネジメント」や「新入学生徒面談」もを行い、不登校を解消することができる。</p> <p>【連続性のある一貫した支援の充実】</p> <p>中学校や関係機関と連携し、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を活用しながら、一人一人の個に応じた連続性のある一貫した支援を充実することができる。</p> <p>【個に応じた進路指導】</p> <p>進路指導主事、キャリアアドバイザーなどの校内支援体制に加え、若者サポートステーショ</p>	<p>学校内で関係者が相互に、定期、不定期に情報交換を行い、必要に応じて関係機関との支援会議も開いた。話し合ったことをもとに支援に取り組んだことで、授業や行事等に参加する積極性を生徒から引き出すなど、学校生活に充実感を与えることができつつある。</p> <p>1年次の入学時に、エンカウンターによるグループワークを実施し、新しいクラスに入る不安感の解消や人間関係づくりに役立てた。さらにその後、担任やスクールカウンセラーとの面談で、相談しやすい関係性を築くこともでき、不適應への未然防止対策に有効であった。</p> <p>支援計画の引継ぎのみならず、様々な情報を中学校から引き継ぐことができた。さらに生徒から合理的配慮の申請ができる制度も取り入れた。これにより職員間できめ細かい情報共有ができ、統一的な支援や配慮ができた。</p> <p>特に障がい者就労に関して、担任、進路指導部、SSWが関わり、生徒にとって最良の進路になる</p>

<p>ンなどの外部機関とも連携して、きめ細かく支援・指導することで、より多くの生徒が個々の適性に合った進路を決定することができる。</p> <p>【通級による指導の導入】</p> <p>平成29年度に高等学校課より「高校における通級による指導」のモデル校の指定を受け、調査・研究を進めてきた。定時制課程において「自立活動」（自校通級）を平成30年度10月から実施し、対人関係・コミュニケーション等に困難さを感じている生徒は、その困難さを軽減し、克服することができる。</p> <p><数値目標></p> <p>平成30年度 「自立活動」を教育課程に位置づけて一部実施（定時制課程1・2年次）</p> <p>平成31年度 「自立活動」を本格実施（定時制課程2・3年次）</p>	<p>よう、きめ細かい支援を行い、進路決定できた。卒業生の進学希望者、就職希望者ともすべて進路先を決定することができた。</p> <p>教育課程の1、2年次に後期1単位の「自立活動」を位置づけ、週2時間、1年次生2名、2年次生1名で実施した。担当者は初めての指導で、手探りの取り組みであったが、生徒は自分の特性を少しずつ理解し、自尊感情を保ちながら自らの課題に前向きに取り組むようになった。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>3 実施事業</p> <p>【高等学校課事業】</p> <p>○高校における特別支援教育充実事業</p> <p>(1) 職員研修会（年3回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「QUの1年生分析と支援検討会」SC ・「QUの2年生分析と支援検討会」SC ・「QUの3年生分析と支援検討会」SC ・「仁摩高校における通級による指導について」 島根県立高等学校特別支援教育コーディネーター <p>(2) 生徒向け講演会（年1回） 定時制課程生徒対象で県外の専門教職員を講師に実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「じぶん、まる！～ひとりじゃないよ。じぶんでいいよ～」 セクシュアルマイノリティのこどもたちの居場所づくりの会代表 <p>(3) 先進校視察（年4回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度高等学校における通級による指導実践研究協議会（兵庫県） ・兵庫県立西宮香風高等学校 ・兵庫県教育委員会事務局特別支援教育課 ・茨城県立茎崎高等学校 <p>(4) 若者サポートステーション職員来校 定期的な訪問による生徒対象の進路相談や講演会を実施（年間18回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時制・通信制水曜日生 月1日 5時間 年間9日 ・通信制日曜日 月1日 5時間 年間9日 <p>[H30 1月実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・18回実施 337件の相談（サポステ事業（中退者情報）を含む）

【独自事業】

○学ぶ意欲育成事業

- ・白鳳サポーター

島根大学で臨床心理学を専攻する大学院生に定期的に来校してもらい、生徒の学習を個別に支援したり、生徒同士のコミュニケーションが円滑に行われるように支援する。

○豊かな心育成事業

- ・自己理解・他者理解

上記の高等学校課事業「高校における特別支援教育充実事業」で実施

4 総合所見（成果・評価）

本校の現状は、不登校の経験、発達障がい、家庭内の人間関係、経済的困難など様々な背景を抱えている生徒がかなりの割合を占めている。そのような理由でなかなか通学できなかった生徒にとって、本校入学はひとつの仕切り直しになっている。そんな生徒一人ひとりにできるだけの支援を行うことで、新たな学校生活が有意義なものになるように取り組んできている。

入学時に中学校からは様々な情報を引き継ぐことができ、本人保護者からの相談にも対応、さらに生徒からの合理的配慮の申請も取り入れたことで、支援に有用な情報を十分得た上で、教員間で共有し、統一的な支援を行うことが出来ている。また、「ユニバーサルデザイン」「合理的配慮」における職員研修を行い、可能な限り学校生活や授業でのつまずきの軽減にも取り組んでいる。

1年次生に実施した Hyper-QU で、1回目の要支援群の数が2回目では減少したり、生徒個々の特性に応じた学習支援や進路先の開拓、外部機関との連携により、昨年度就職を希望する生徒全員が卒業までに進路先を決定したりと、目に見える成果も現れてきている。

「通級による指導」では、実施校視察や研修参加、特別支援教育課の協力などを経て、なんとか白鳳高校としての「通級」をスタートすることが出来た。特に特別支援教育課のLD等専門員には、現場を視察し、適切な助言を与えてもらえたとし、本校のオリジナルな指導法についても評価をいただいた。そのことは経験の乏しい担当者にとって大いに心強いものであった。

指導を進める中で、個々の課題が少しずつ克服されていく様子を確認することが出来たとし、次年度は指導を受けずに自分でチャレンジする生徒も出たことは、自己理解、人間関係の形成、コミュニケーション能力の育成に一定の効果があったと言える。

個別指導から集団と関わる指導に進むには、時間割の調整が必要になるなど課題もあるが、生徒の空き時間を使うこと、ティームティーチングで行うこと、指導の記録を生徒の全教科担当が回覧して状況を理解しておくことなど、概ねうまく機能していると思われる。さらに課題を検証しつつ、内容を改善していくつもりである。

※枚数任意